F2-2

近代以降の江の島における観光の変遷に関する研究

Study on the Succession of Tourism in Enoshima since Modern Times

○佐々木拓磨[1]，押田佳子[2]
*Takuma Sasaki[1]，Keiko Oshida[2]

Abstract: In this study, we investigated the evolution of tourism on Enoshima Island since the modern era, based on the distribution in the tourism industry. Results, it is cleared that Enoshima tourism went through a period of decline in postwar tourism, a push for postwar development, and a decline in overnight..

１．**背景及び目的**―近世以降，江の島は，参詣及び観光地として多くの人で賑わってきた著名な景勝地である．1869 年の廃仏毀釈に伴い江島神社は解体，縮小されたが，現在も信仰と観光が共存し，祭や御開帳の際には多くの観光客が訪れている．このように，江の島を取り巻く状況は時代と共に変化しており，これに付随する観光も同様に変化しているとみられる．そこで本研究では，近代以降の江の島観光の変遷を，島内の観光産業の分布より捉えることを目的とする．

２. **調査方法**―調査概要を Table1, 調査対象地を Figure1 に示す. なお, 本稿では観光資源や店舗等の分布より，対象エリアを「仲見世」「東町」「江島神社」とした．

３．**結果及び考察**―Table2 に調査結果を示す．観光の変遷については調査より,「近世･近代観光混在期（1868～1923 年）」「観光産業縮小期（1924～1945 年）」「観光開発推進機（1946～1963 年）」「宿泊観光衰退期（1964～2001 年）」「観光産業転換期（2002～2023 年）」に５分類した．以降，これに従い結果及び考察を述べる．

３－１．**近代・近世観光混在期**―Table2 より,「仲見世」は，近世から続く⓫恵比寿屋や⓫岩本楼等の宿泊施設，❺寶月や❽山本商店等の土産物屋を中心に，観光客で賑わっていた．「江島神社」には，1868 年に旧境内地の一部に㉔旧・江の島植物園の創設や高級旅館⑲金亀楼の開業，漁師町である「東町」には，⑥初代・江の島水族館が建設，❷青銅の鳥居の前には③写真屋の配置等，新たな観光資源がみられた． 以上より，この頃は近世・近代の観光資源が混在した時期といえよう．

３－２．**観光産業衰退期**―関東大震災後,「東町」に⑦2 代目・江の島水族館，ニホンザルを展示する⑧モンキーハウスが開設された．さらに，1929 年に小田原急行片瀬江ノ島駅開業に伴い，駅前に旅行客を呼び込むための旅館等の出張所が立ち並び，活気を帯びた．しかし，戦時中になると,「仲見世」の旅館⑨江戸屋は陸海軍に接収され，高射砲発射場への眺望確保のため，当時には珍しい４階建てを３階建に改修，旅館主には新たな土地が提供され，のちに旅館⑩二見館が開業された．また，昭和初期には土産屋を兼ねた菓子屋が数軒あったが，砂糖の供給が途絶えたことで，１件を残し廃業に至った．以上より，この頃は戦争の影響を受け，観光産業が衰退した時期といえよう．

Table1　調査概要

調査方法	文献調査	ヒアリング調査
調査期間	2023 年 4 月 1 日～9 月 29 日	2022 年 4 月 30 日～8 月 29 日
調査対象	「江ノ島鎌倉名勝巡覧」 「鎌倉江ノ島遠足の記」 「藤沢市史」など計 21 冊[1]～[21]	土産物店 A 氏/土産物屋 B 氏/ 神社 C,D 氏/工芸品店氏 E 氏/ 水産土産物店 F 氏/土産物屋 G 氏[注1]
調査内容	文献資料中から江の島の観光資源に関する記載の調査	過去の江の島の観光資源の立地等について

３－３．**観光開発推進期**―1947 年に江の島を含む片瀬町が藤沢市に合併され，1949 年に❼「藤沢市立江ノ島熱帯植物園（現・江の島植物園）」が開園，1951 年に㉕読売平和塔建設，1959 年に日本初のエスカレーター❶江の島エスカー設置等, 積極的な観光整備がなされ，島内は修学旅行生で賑わうようになった．1964 年には東京オリンピックのヨット競技開催に先立ち，❹江の島湘南港が開港され，これに伴い大島航路等が航行するようになった．以上より，この頃は戦後復興と相俟って，観光開発が推進された時期といえよう．

３－４．**宿泊観光衰退期**―1981 年に⑲金亀楼，同時期に④さぬきや，⑩二見館の閉業を確認した．一方，観光客のカメラ持参への対策として，象徴的な被写体となる❻瑞心門が建設された．以上より，この頃は「仲見世」を中心に宿泊観光が衰退した時期といえよう．

３－４．**観光産業転換期**―「江島神社」では，2002 年に読売平和塔が老朽化で取り壊され， 2003 年に新たなシンボル㉙江の島シーキャンドルが開業した.「仲見世」では，たこせんべい屋❸あさひ本店[注2]や❾とびっちょなど，島外出身者による店舗が参入した．また，近代まで最も賑わった「江島神社」に軒を連ねた民宿が立て続けに廃業した．以上より，この頃は「仲見世」に島外資本参入,「江島神社」の宿泊観光が衰退等，江の島全体の観光産業が大きく転換した時期といえよう．

４．**まとめ**―本研究を遂行した結果，近代初期には近

１：日大理工・学部・まち　２：日大理工・教員・まち

世・近代の観光資源が混在していた江の島観光が，その後戦争の影響による観光産業の衰退，戦後復興に伴う観光開発の推進，「仲見世」等の宿泊観光の衰退を経て，現代の江の島全体における観光産業の転換へと至った変遷を捉えることが出来た．

５．**謝辞**―本研究を進めるにあたり，江の島の関係者のみなさまに多大なるご協力をいただきました．この場をお借りして厚く御礼申し上げます．

６．**注釈**―注１：データ保護の観点上，ヒアリング対象者は略称とする．注２：開業時は島内出身者が営業，現在は島外出身者に委託している．

７．**参考文献**―[1]法木徳兵衛,江ノ島鎌倉名勝巡覧,1883[2]杉山敬二郎,江ノ島鎌倉金沢横須賀独案内,1884[3] 堀内立雄,鎌倉江ノ島金沢名所之柴折,1877 [4]吾妻健三郎,鎌倉江の島名所図鑑,1892 [5]東陽堂書店,江島鵠沼逗子金沢名所図鑑,1892 [6] 野崎左文,東海東山畿内山陽漫遊案内,1893 [7] 内田輝彦,江の島植物園物語,1955[8]佐藤寛,鎌倉江ノ島遠足の記,1983[9]岡崎保吉,江のしま物語,1907[10]呉文炳,江の島錦繪集成,1960[11]菊判函付,藤沢市史,Vol.6,1977[12]江ノ島電鉄開業 100周年記念誌編纂室,江ノ電の 100 年,2002[13]雨宮育作,世界最大江ノ島マリンランド案内ー鯨の知識ー[15]片瀬公民館,片瀬・江の島のふるさとの歴史,1981[16]江の島の今昔展実行委員会,江の島の今昔,1984[17]東陽堂書店,江島鵠沼逗子金沢名所図鑑,1898[18]佐藤寛,鎌倉江島遠足の記,1893[19]片瀬だより編集委員会,片瀬だより,2022[20]鈴木克美,神奈川県の水族館史―首都近郊における明治 23 年以降の水族館の発展―,東海大学博物館研究報告,No.4,2002[21]日本名勝寫生紀行,Vol.4,1913[22]藤沢市 HP,https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp,2023.8.23[23]国土数値情報ダウンロードサイト,https://nlftp.mlit.go.jp/index.html,2023.6.10[24]国土交通省,基盤地図情報サイト,https://www.gsi.go.jp,2023.6.10

Table2　江の島観光に関する年表（丸数字は Figure1 に対応する．）　（○に黒数字：現存しない観光資源，●に白数字：現存する観光資源）

	江の島に関わる社会の動き	A 仲見世	B 東町	C 江島神社
近世・近代観光混在期	1877 年 JR 東海道線開通（横浜-国府津間） 1891 年❶江の島弁天橋（木橋）建設 1891 年以降❶②江の島弁天橋渡橋賃発生 1902 年江之島電気鉄道営業開始 1909 年江の島に初めて電燈がつく 1920 年❶江の島弁天橋が県営となる 1923 年関東大震災発生	1871 年別当寺岩本院が⓬旅館岩本楼として開業開始 1912 年頃大正時代⑭案内所(1)※が存在 [カメラ普及以前]③写真屋が入口前で営業	1902 年⑥初代・江の島水族館※が開館	1874 年❽中野商店開業 1881 年サムエル・コッキングによる㉔旧・江の島植物園創設 1884 年⑱片瀬小学校分校（江之島小學校）開校 1888 年⑲金龜楼が新築 [カメラ普及以前]③写真屋が植物園前で営業
観光産業縮小期	1926 年頃菓子屋が 1 件を残し全て廃業 1929 年小田原急行電鉄江ノ島線開通（相模大野-藤沢-片瀬江ノ島間） 1929 年以降駅前で旅館の出張所が営業 1931 年湘南海岸道路開通 1931 年バス（江ノ島-鎌倉間）営業開始 1933 年川口村が片瀬町と改称 1936 年❶②江の島弁天橋渡橋賃一時廃止 1945 年第二次世界大戦	1926 年❽山本商店開業 1926 年頃⑬北村屋⑭橋屋開業 1927 年頃⑫スマートボール屋開業 1928 年❺寶月開業 1930 年頃❸案内所(2)※が存在した 1945 年頃⑨江戸屋が存在した [戦争時]⑤高射砲の発射場設置 ⑤発射場への眺望確保のため⑨江戸屋の 4 階建てから 3 階建てに改修	1925 年頃⑦2 代目・江の島水族館※が開館 1925 年頃⑧モンキーハウスが存在 1935 年頃⑦2 代目・江の島水族館※が閉館	1935 年頃⑳寶物陳列場が存在
観光開発促進期	1947 年片瀬町，藤沢市に合併 1949 年❶江の島弁天橋が PC 橋に改良 1959 年①露天商撤去の陳情提出 1963 年❶②江の島弁天橋渡橋賃無料に	1946 年以降⑨江戸屋が新たな土地を提供され，⑩二見館（新館）を建設 1951 年以降①露天商が出店し始める 1950 年頃⑰❻丸代商店が現在地に移転 1960 年頃①❹露天商の一店舗が今朝の 1 階部に移転 1960 年以降❹今朝の全てが現在の貝作に	Photo1　江の島（出典：1910 年頃の絵はがき）	1949 年㉗現・江の島植物園開園 1949 年㉕読売平和塔建設 1959 年㉒江の島館営業開始 1960 年⑫江の島エスカーの設置 1961 年⑰片瀬小学校分校（江之島小學校）廃止
宿泊観光衰退期	1964 年❶江の島弁天橋（大橋）建設 1964 年東京オリンピックヨット競技が江の島沖で開催	1975 年頃④さぬきやが廃墟であった 1975 年以降④さぬきやから佐川急便の研修センターへ建て替え 1985 年頃❸案内所(2)※が現在地に移転 1989 年頃①露天商が残っていた 1989 年頃⑩二見館が閉業 1996 年頃⑫スマートボール屋閉業	1964 年⑫江の島湘南港完成 1965 年大島航路・水中翼船就航 1969 年水中翼船廃止 1974 年大島航路廃止 1996 年⑦江の島水族館(2)※のコンクリートの残骸が残っていた	1981 年⑱金龜楼が閉業 1986 年⑯瑞心門建設 Photo2 ㉕読売平和塔（出典:1970 年頃の絵はがき）
観光産業転換期	2002 年江之島電気鉄道 100 周年 2003 年新江ノ島水族館開館 2013 年圏央道開通	2003 年⑬あさひ本店開業 2004 年❾とびっちょ開業 2004 年④佐川急便の研修センターから⑩江の島アイランドスパへ	Photo3　江の島（出典：1970 年頃の絵はがき）	2002 年㉔読売平和塔の取り壊し 2003 年㉘サムエル・コッキング苑開園 2003 年㉙シーキャンドル開業 2010 年頃㉗民宿うさみ閉業

※1902 年開館の水族館を⑥初代・江の島水族館，大正末期に開館した水族館を⑦2 代目・江の島水族館とした．大正時代初期の掘っ立て小屋的な施設を⑮案内所(1)，入口の鳥居付近に存在し，遊覧船のチケット販売をしていた案内所を❸案内所(2)とした．

現存しない観光資源				現存する観光資源				
①露天商	⑧モンキーハウス	⑮案内所(1)※	㉒外国人の別荘	❶江の島弁天橋	❼絵図屋/（有）堀江商店	⓬岩本楼	⑲中津宮	㉖岩屋
②橋番の小屋	⑨江戸屋	⑯小川亭	㉓江の島館	❷青銅の鳥居	❽山本商店	⑬あさひ本店	⑳不老門の碑石	㉗現・江の島植物園
③写真屋	⑩二見館	⑰丸代商店(移転前)	㉔旧・江の島植物園	❸案内所(2)※	❾とびっちょ	⑫江の島湘南港	㉑屏風石	㉘サムエル・コッキング苑
④さぬきや	⑪堺屋	⑱片瀬小学校分校	㉕読売平和塔	❹貝作	❿江の島アイランドスパ	⑭江の島エスカー	㉒中野商店	㉙シーキャンドル
⑤発射場	⑫スマートボール屋	⑲金龜楼	㉖木食上人の遺蹟	❺寶月	⑪恵比寿屋	⑯瑞心門	㉓奥津宮	
⑥初代・江の島水族館※	⑬北村屋	⑳寶物陳列場	㉗民宿うさみ	❻丸代商店		⑰邊津宮	㉔龍燈松の碑	
⑦2 代目・江の島水族館※	⑭橋屋	㉑蓮華池				⑱八坂神社	㉕皃ヶ淵	

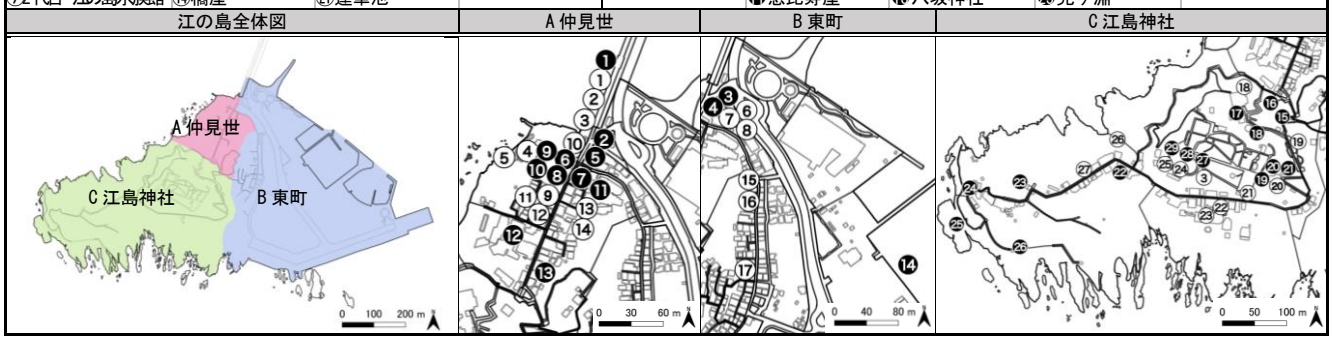

Figure1　調査対象地　（図：国土地理院を元に筆者が作成）